

# 鳥取県病原微生物検出情報

(令和元年9月検出分；検体採取 令和元年8, 9月)

令和元年10月18日

鳥取県衛生環境研究所

## 1 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体1件（検体採取8月中旬・検体番号190158）について検査を実施したところ、アデノウイルス56型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10月8日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス56型は2015年から2019年まで第4～5位の報告数となっています。（図1）

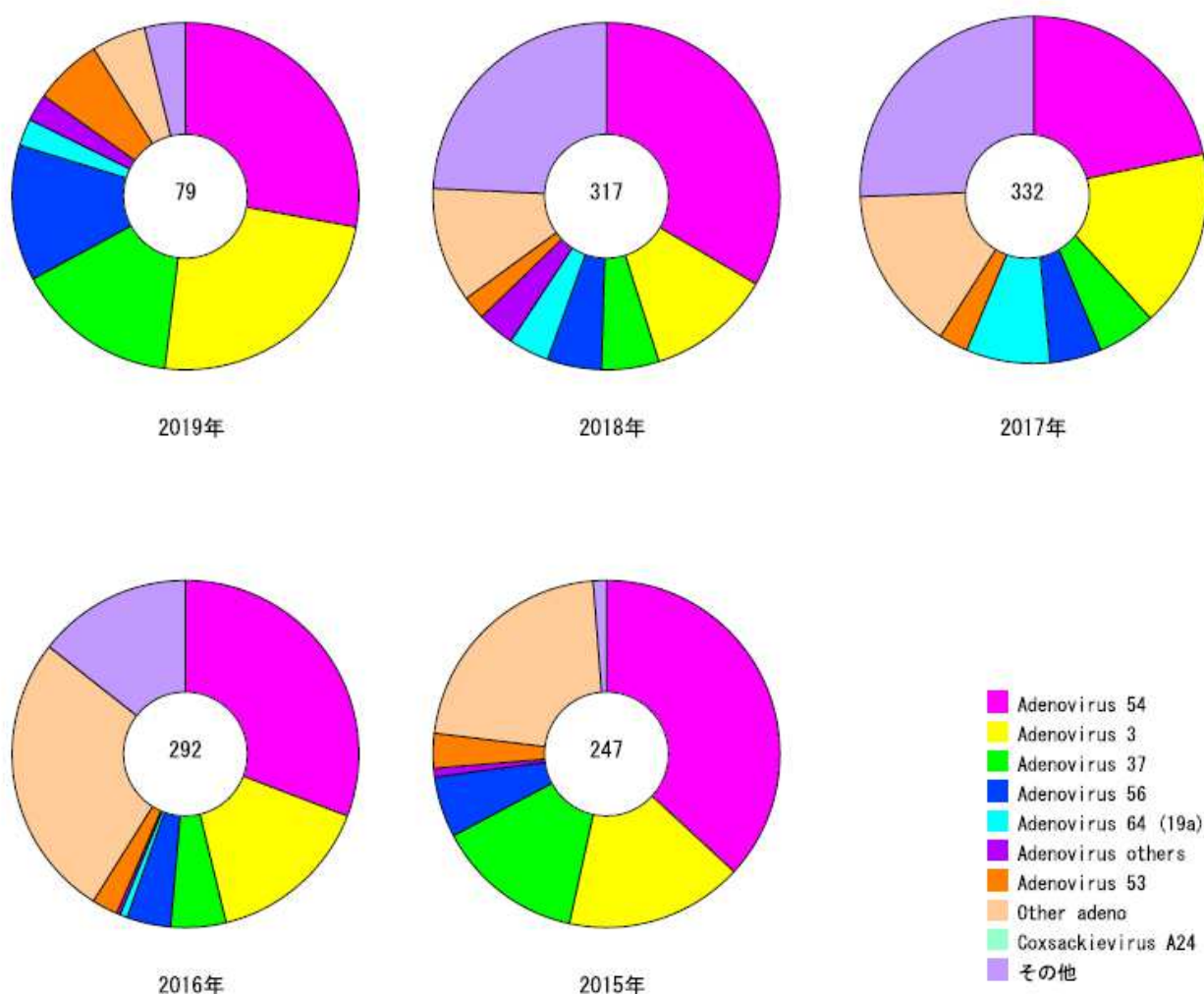


図1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015年～2019年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（10月8日までに報告された数）

## 2 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 1 件（検体採取 9 月上旬・検体番号 190167）について検査を実施したところ、アデノウイルス 3 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10 月 8 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 3 型は 2015 年から 2019 年まで最も多く報告されています。（図 2）

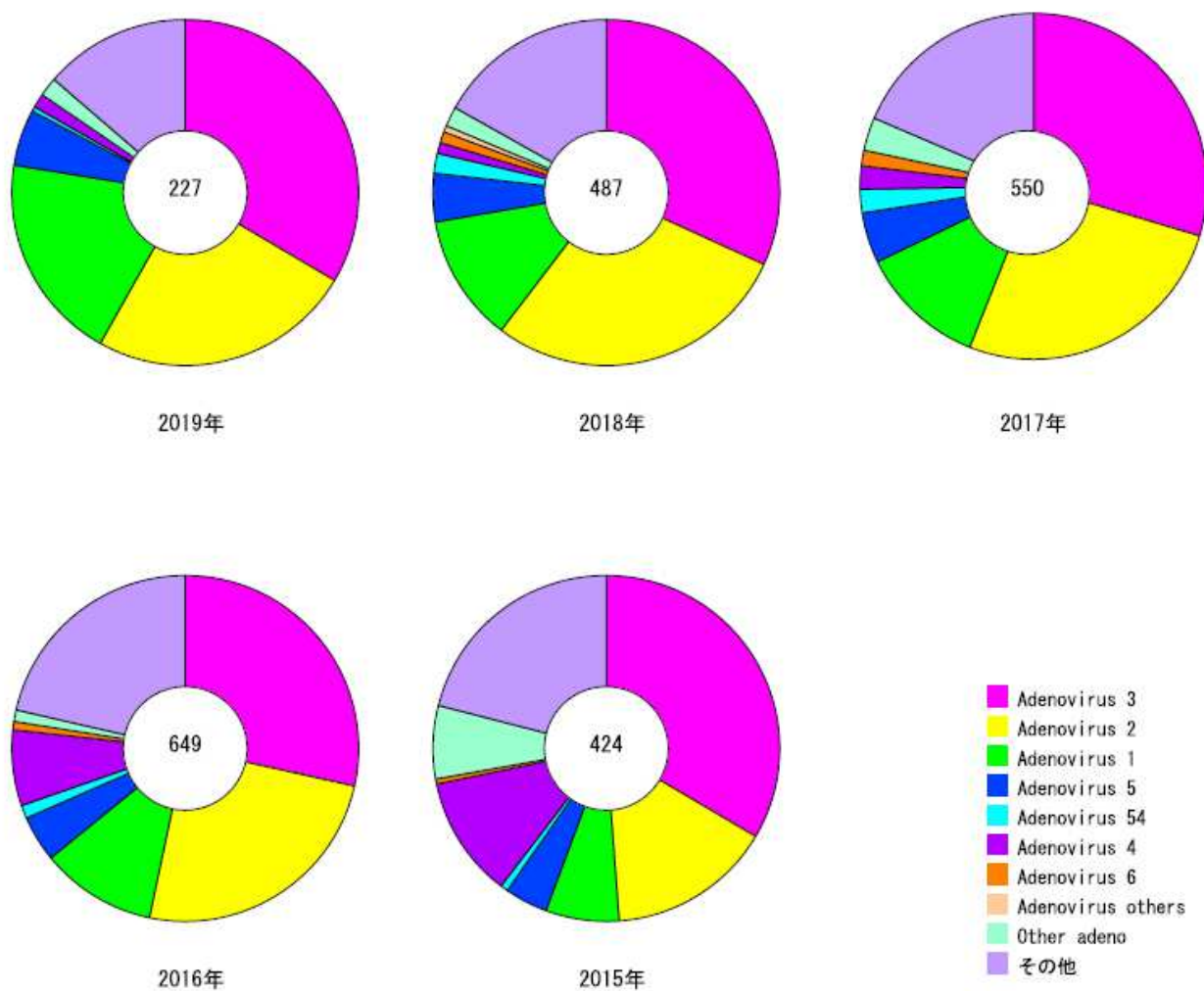


図 2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015 年～2019 年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（10 月 8 日までに報告された数）

### 3 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 6 件（検体採取 8 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス 2 件とアデノウイルス 40/41 1 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190161	8 月下旬	検出 (GII)	/	/	/	/	/
190162	8 月下旬	—	—	—	—	—	—
190163	8 月下旬	—	—	—	—	—	—
190164	8 月中旬	—	—	—	—	—	—
190165	8 月上旬	検出 (GII)	/	/	/	/	/
190166	8 月上旬	—	—	—	検出	/	/
検出計		2 件	0 件	0 件	1 件	0 件	0 件

(—)：未検出

### 4 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体 2 件（検体採取 8 月中旬、下旬）について、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルス及びムンプスウイルスの検査を実施しました。その結果、1 件（検体番号 190159）から、エコーウイルス 18 型が検出されました。（その他検出されず）

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10 月 8 日作成）によると、今年、全国の無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、エコーウイルス 18 型は、第 6 位の報告数となっています。（表 2）

表 2 無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2018～2019 年）

（本年は 10 月 8 日までに報告された数）

2019			2018		
1	Coxsackievirus B5	14 7.3%	1	Echovirus 11	61 14.8%
2	Echovirus 30	13 6.8%	2	Coxsackievirus B4	27 6.6%
3	Coxsackievirus B3	11 5.8%	3	Coxsackievirus B5	24 5.8%
4	Coxsackievirus A6	6 3.1%	4	Echovirus 18	20 4.9%
5	Echovirus 11	6 3.1%	5	Enterovirus 71	14 3.4%
6	Echovirus 18	3 1.6%	6	Coxsackievirus A9	11 2.7%
7	Coxsackievirus A5	1 0.5%	7	Coxsackievirus B2	10 2.4%
8	Coxsackievirus A10	1 0.5%	8	Echovirus 6	8 1.9%
9	Coxsackievirus B1	1 0.5%	9	Echovirus 7	7 1.7%
10	Other enterovirus	15 7.9%	10	Other enterovirus	34 8.3%
11	Mumps virus	5 2.6%	11	Mumps virus	14 3.4%
12	Other virus	115 60.2%	12	Other virus	182 44.2%
Total		191 100.0%	Total		412 100.0%

## 5 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 8 月上旬）について、RS ウイルスの検査を実施しましたが、RS ウイルスは検出されませんでした。

## 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

発生届のあった検体 3 件について検査を実施したところ、全て 4 つの遺伝子型（IMP 型、NDM 型、KPC 型、OXA-48 型）ではありませんでした。（詳細は表 3 のとおり）

表 3 検査状況（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

検体情報		検体受付日	総合判定			
発生届年月日	菌種		IMP 型	NDM 型	KPC 型	OXA-48 型
R1.9.3	<i>Enterobacter cloacae</i> (喀痰より分離)	R1.9.4	—	—	—	—
R1.9.10	<i>Enterobacter cloacae</i> (喀痰より分離)	R1.9.10	—	—	—	—
R1.9.20	<i>Enterobacter cloacae</i> (膿瘍より分離)	R1.9.24	—	—	—	—

(—): 未検出

# 鳥取県病原微生物検出情報

(令和元年 10 月検出分；検体採取 令和元年 9 月)

令和元年 11 月 15 日

鳥取県衛生環境研究所

## 1 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 2 件（検体採取 9 月上旬、下旬）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルスが検出されました。検出されたアデノウイルスについては、1 件（検体番号 190170）は 54 型で、残り 1 件（検体番号 190169）は D 種でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（11 月 12 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2015 年から 2019 年まで最も多く報告されています。（図 1）

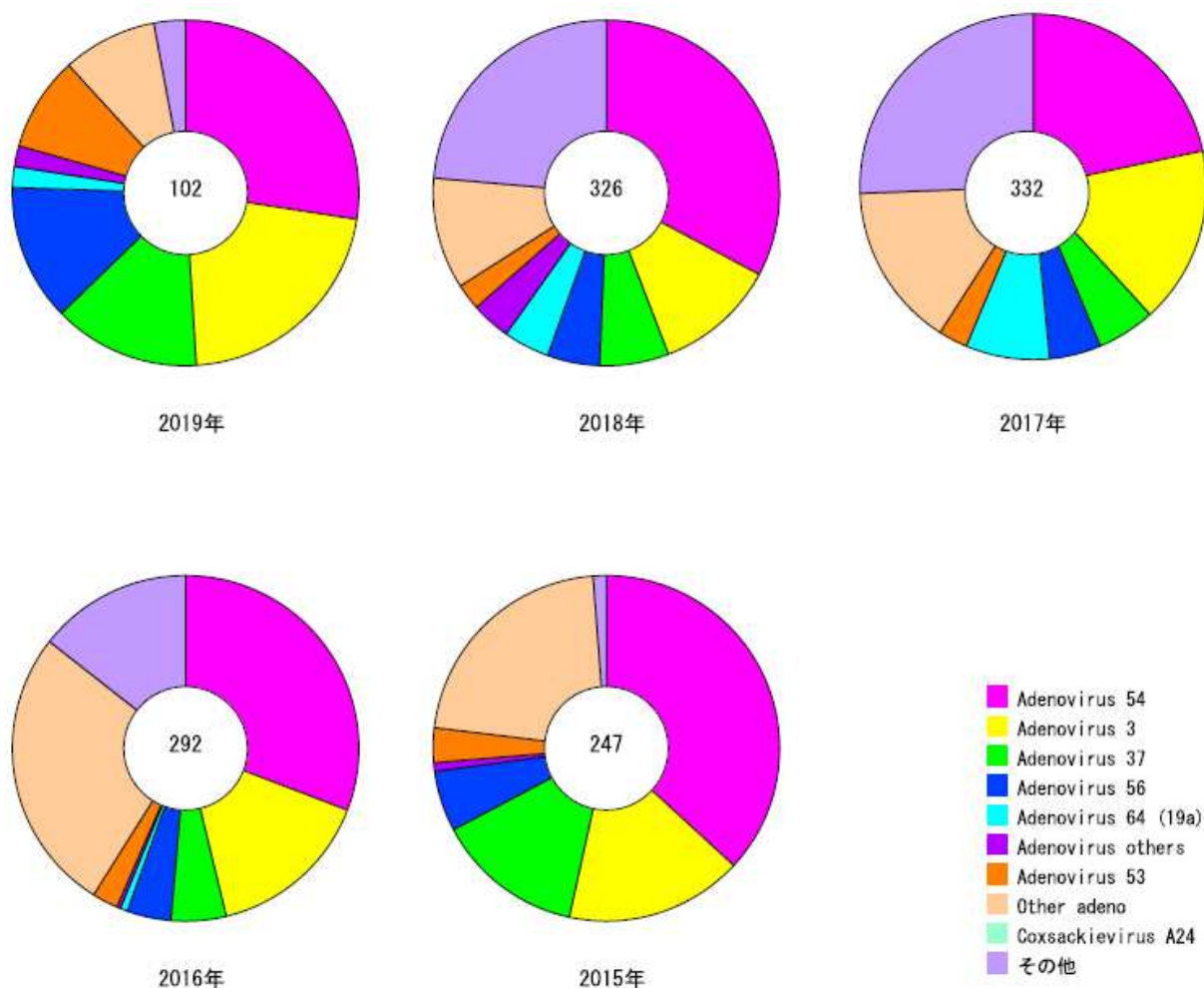


図 1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015 年～2019 年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（11 月 12 日までに報告された数）

## 2 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体2件（検体採取9月上旬、中旬）について、検査を行ったところ、すべてインフルエンザA2009型が検出されました。（詳細は表1のとおり）

表1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2019	9月6日	西部	1	1	0	0	0	
	9月12日	西部	1	1	0	0	0	
病原体定点PCR検査合計 (2019/9/2- 現在)			2	2	0	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（11月12日作成）によると、今シーズンは、A2009型が最も多く報告されています。（図2）

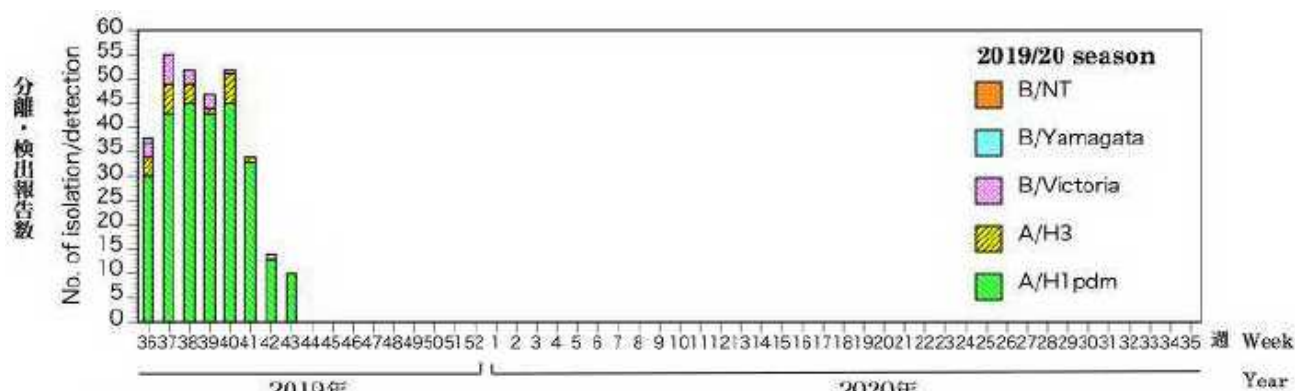


図2 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

## 3 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎（RSウイルス感染症の併発1件（検体番号190179）を含む）の検体7件（検体採取9月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス1件でした。（詳細は表2のとおり）

表2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190171	9月中旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190174	9月中旬	—	—	—	—	—	—
190175	9月中旬	—	—	—	—	—	—
190176	9月上旬	—	—	—	—	—	—
190177	9月上旬	—	—	—	—	—	—
190178	9月上旬	—	—	—	—	—	—
190179	9月上旬	—	—	—	—	—	—
検出計		1件	0件	0件	0件	0件	0件

(—): 未検出

#### 4 RS ウイルス感染症

臨床診断名がRS ウイルス感染症の検体2件（検体採取9月上旬（検体番号190179、190180））について、RS ウイルスの検査を実施したところ、すべてRS ウイルスA 亜型が検出されました。

#### 5 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体1件（検体採取9月上旬）について検査を実施したところ、エンテロウイルスは検出されませんでした。

#### 6 突発性発疹

臨床診断名が突発性発疹の検体1件（検体採取9月中旬）について検査を実施したところ、ヘルペスウイルス6、7は検出されませんでした。

#### 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

発生届のあった検体5件について検査を実施したところ、全て4つの遺伝子型（IMP型、NDM型、KPC型、OXA-48型）ではありませんでした。（詳細は表3のとおり）

表3 検査状況（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

検体情報		検体受付日	総合判定			
発生届年月日	菌種		IMP型	NDM型	KPC型	OXA-48型
R1.9.30	<i>Enterobacter aerogenes</i> (喀痰より分離)	R1.10.1	—	—	—	—
R1.10.3	<i>Enterobacter aerogenes</i> (鼻汁より分離)	R1.10.3	—	—	—	—
R1.10.10	<i>Enterobacter aerogenes</i> (尿より分離)	R1.10.16	—	—	—	—
R1.10.17	<i>Enterobacter aerogenes</i> (喀痰より分離)	R1.10.18	—	—	—	—
R1.10.23	<i>Enterobacter sp.</i> (胆嚢穿刺液より分離)	R1.10.24	—	—	—	—

(—): 未検出

# 鳥取県病原微生物検出情報

(令和元年 11 月検出分；検体採取 令和元年 10 月、11 月)

令和元年 12 月 10 日

鳥取県衛生環境研究所

## 1 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 1 件（検体採取 10 月下旬（検体番号 190183））について検査を実施したところ、アデノウイルス 54 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12 月 3 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2015 年から 2019 年まで最も多く報告されています。（図 1）

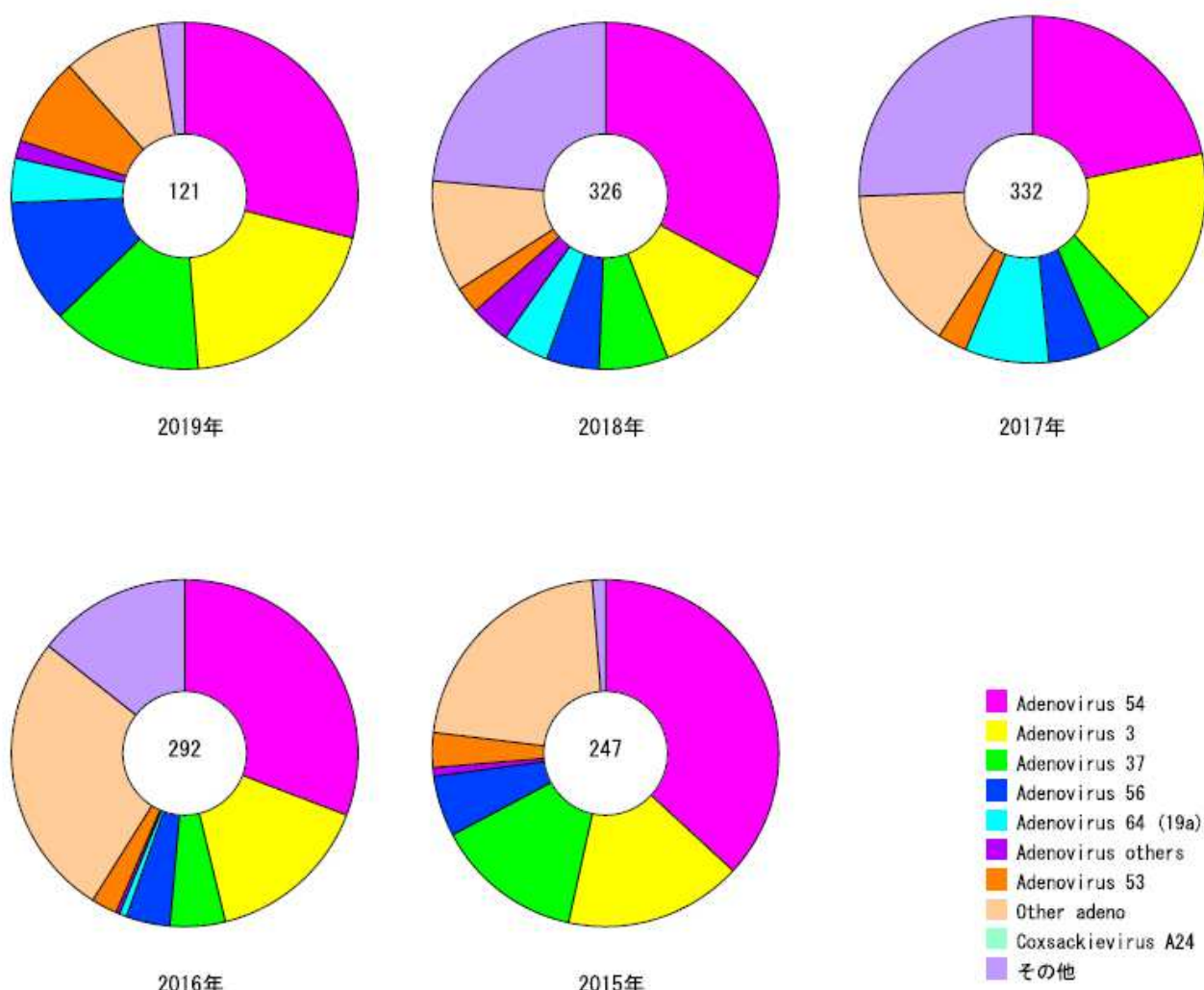


図 1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015 年～2019 年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2019 年は 12 月 3 日までに報告された数）



## 2 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 2 件（検体採取 10 月上旬、中旬）について検査を実施したところ、1 件（検体番号 190191）からアデノウイルス 3 型が検出されました。

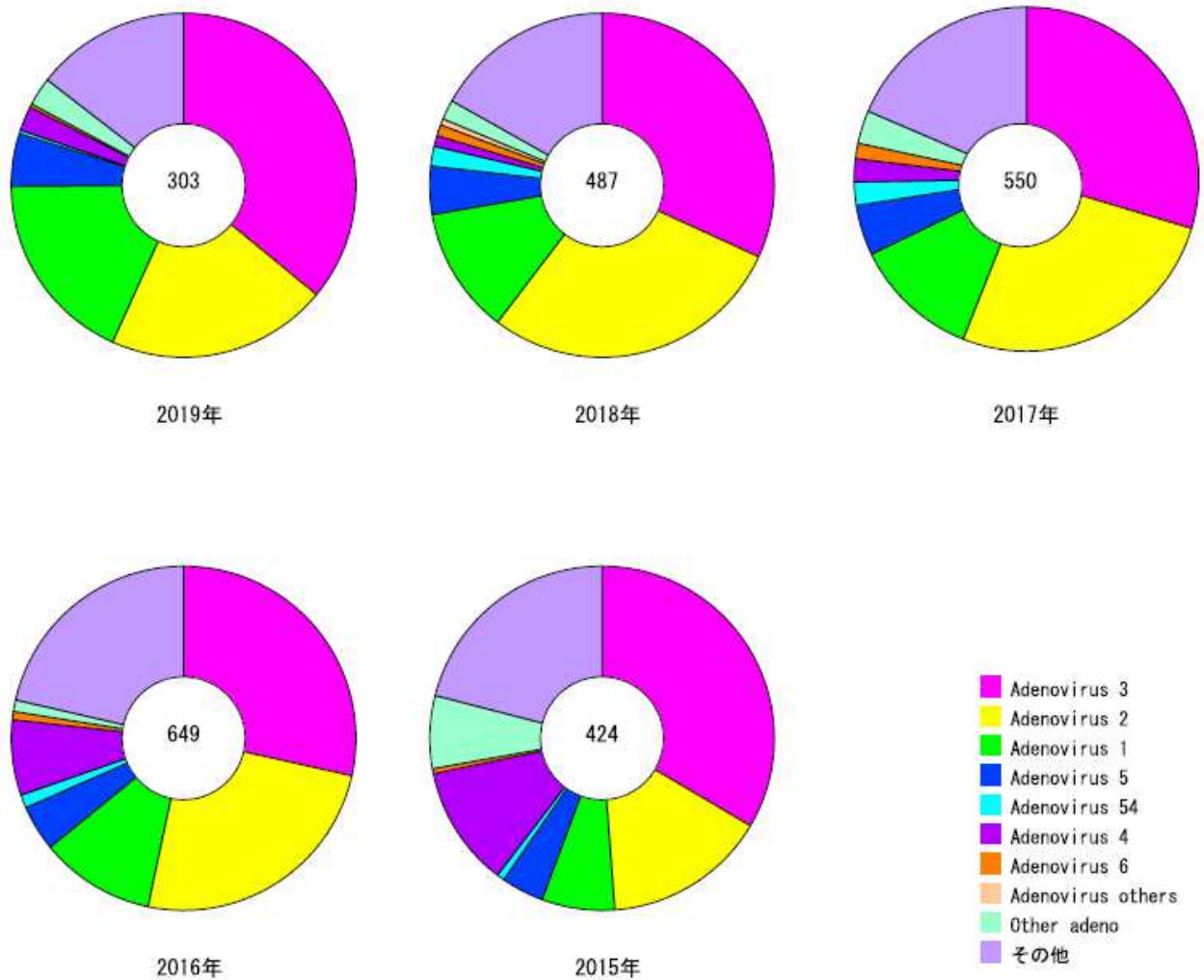


図2 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2015年～2019年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2019年は12月3日までに報告された数）

### 3 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎（ヘルパンギーナ（疑）、咽頭結膜熱（疑）の併発1件（検体番号 190193）を含む）の検体7件（検体採取 10月）について、検査を行いました。表2の6種類のウイルスについては、すべて検出されませんでした。（詳細は表2のとおり）なお、ヘルパンギーナ等を併発した検体1件について、エンテロウイルスとアデノウイルスについても検査をしたところ、エンテロウイルス（型別不能）が検出されました。

表2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190184	10月中旬	—	—	—	—	—	—
190185	10月上旬	—	—	—	—	—	—
190186	10月上旬	—	—	—	—	—	—
190187	10月上旬	—	—	—	—	—	—
190188	10月上旬	—	—	—	—	—	—
190193	11月上旬	—	—	—	—	—	—
190194	10月中旬	—	—	—	—	—	—
検出計		0件	0件	0件	0件	0件	0件

(—)：未検出

### 4 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体1件（検体採取 10月上旬）について検査を実施したところ、コクサッキーウイルス B5型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月3日作成）によると、今年、全国の無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、コクサッキーウイルス B5型は第2位の報告数となっています。

(表2)

表2 無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2018～2019年）

(2019年は12月3日までに報告された数)

2019			2018		
1 Echovirus 30	41	12.9%	1 Echovirus 11	61	14.8%
2 Coxsackievirus B5	20	6.3%	2 Coxsackievirus B4	27	6.5%
3 Coxsackievirus B3	17	5.4%	3 Coxsackievirus B5	24	5.8%
4 Echovirus 18	13	4.1%	4 Echovirus 18	20	4.8%
5 Coxsackievirus A6	9	2.8%	5 Enterovirus 71	14	3.4%
6 Echovirus 11	9	2.8%	6 Coxsackievirus A9	11	2.7%
7 Echovirus 6	7	2.2%	7 Coxsackievirus B2	10	2.4%
8 Echovirus 25	5	1.6%	8 Echovirus 6	8	1.9%
9 Coxsackievirus B4	4	1.3%	9 Echovirus 7	7	1.7%
10 Other enterovirus	23	7.3%	10 Other enterovirus	34	8.2%
11 Mumps virus	6	1.9%	11 Mumps virus	14	3.4%
12 Other virus	163	51.4%	12 Other virus	183	44.3%
Total	317	100.0%	Total	413	100.0%

## 5 RS ウイルス感染症

臨床診断名がRS ウイルス感染症の検体1件（検体採取10月上旬（検体番号190192））について、RS ウイルスの検査を実施したところ、RS ウイルスA亜型が検出されました。

## 6 細菌性髄膜炎

臨床診断名が細菌性髄膜炎の検体2件（検体採取11月上旬）について、大腸菌、黄色ブドウ球菌及びB群レンサ球菌について検査を実施しましたが、すべて分離されませんでした。

## 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

発生届のあった検体1件について検査を実施したところ、4つの遺伝子型（IMP型、NDM型、KPC型、OXA-48型）ではありませんでした。（詳細は表3のとおり）

表3 検査状況（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

検体情報		検体受付日	総合判定			
発生届年月日	菌種		IMP型	NDM型	KPC型	OXA-48型
R1.11.1	<i>Enterobacter cloacae</i> (喀痰より分離)	R1.11.5	—	—	—	—

(—): 未検出

# 鳥取県病原微生物検出情報

(令和元年 12 月検出分 ; 検体採取 令和元年 11 月、12 月)

令和 2 年 1 月 17 日

鳥取県衛生環境研究所

## 1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体 8 件 (検体採取 11 月中旬~12 月中旬)について、検査を行ったところ、7 件からインフルエンザ A2009 型が検出されました。残り 1 件からは、インフルエンザウイルスは検出されませんでした。(詳細は表 1 のとおり)

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2019	9月6日	西部	1	1	0	0	0	
	9月18日	西部	1	1	0	0	0	
	11月25日	西部	1	1	0	0	0	
	12月2日	中部	1	1	0	0	0	
	12月10日	西部	1	1	0	0	0	
	12月13日	東部	1	1	0	0	0	
	12月13日	西部	1	1	0	0	0	
	12月16日	中部	1	1	0	0	0	
	12月16日	西部	1	1	0	0	0	
病原体定点PCR検査合計 (2019/9/2 - 現在)			9	9	0	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報 (1 月 12 日作成) によると、今シーズンは、A2009 型が最も多く報告されています。(図 2)

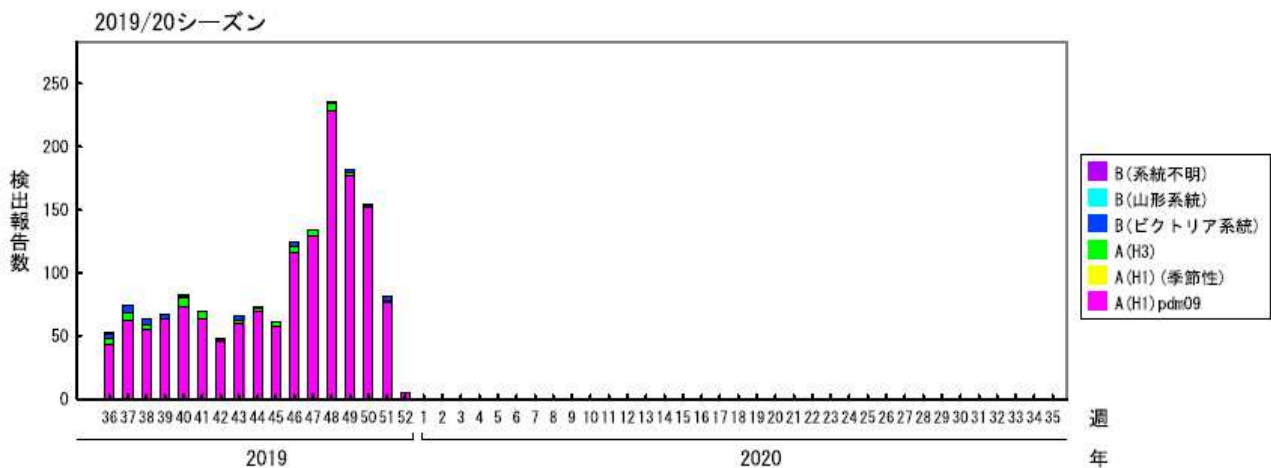


図 2 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

## 2 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 1 件（検体採取 11 月中旬（検体番号 190211））について検査を実施したところ、アデノウイルス 3 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（1 月 10 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 3 型は 2016 年から 2019 年まで最も多く報告されています。（図 1）



図 2 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2016 年～2020 年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2020 年は 1 月 10 日までに報告された数）

### 3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 1 件（検体採取 11 月中旬（検体番号 190211））について検査を実施したところ、アデノウイルス 54 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（1 月 10 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2016 年から 2019 年まで最も多く報告されています。（図 1）

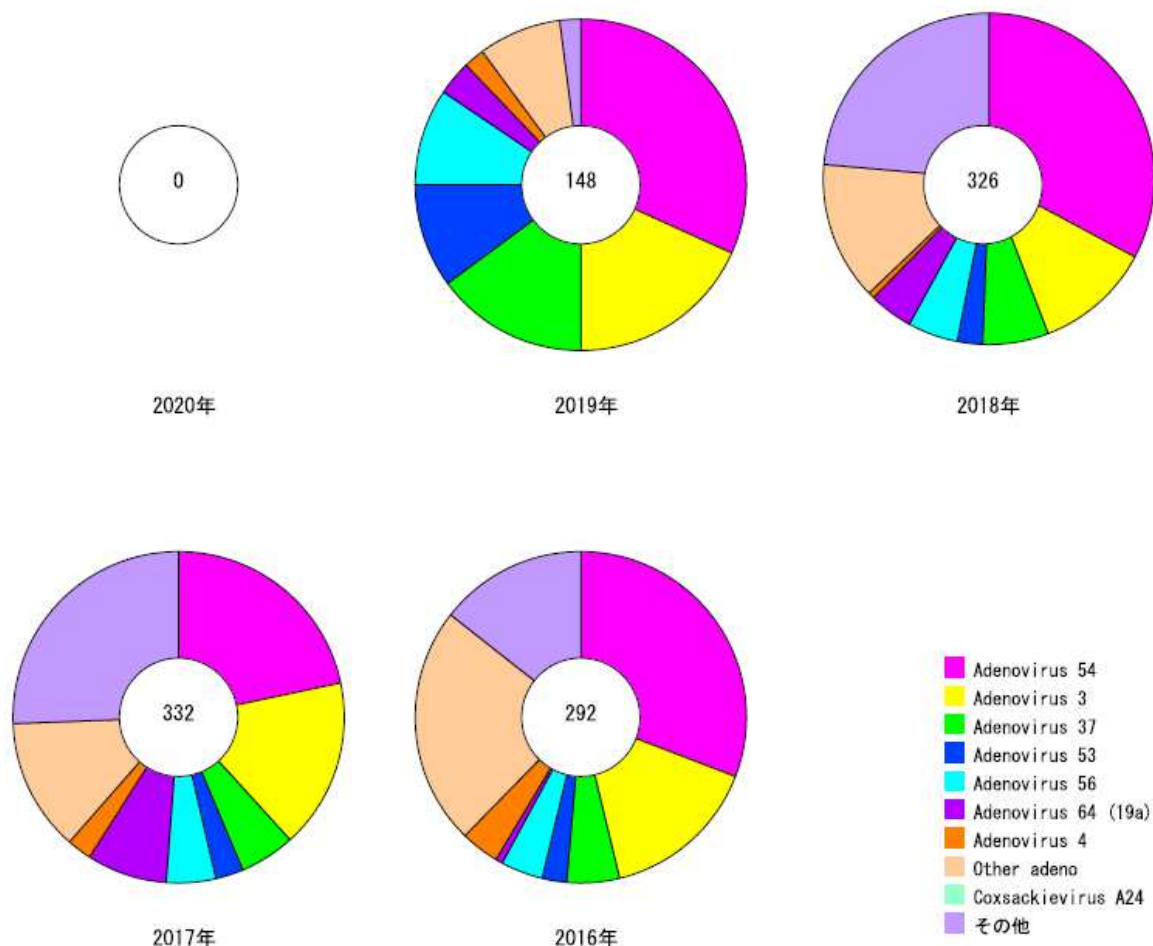


図 3 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2016 年～2020 年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2020 年は 1 月 10 日までに報告された数）

### 4 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 1 件（検体採取 11 月上旬（検体番号 190212））について検査を実施したところ、エンテロウイルスが検出されました。検出されたエンテロウイルスについては、型別不能でした。

## 5 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 11 件（検体採取 11 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス 5 件とサポウイルス 2 件でした。（詳細は表 2 のとおり）

表 2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
190198	11 月上旬	検出 (G II)					
190199	11 月下旬	—	—	—	—	—	—
190200	11 月中旬	—	—	—	—	—	—
190201	11 月中旬	検出 (G II)					
190205	11 月中旬	検出 (G II)					
190206	11 月中旬	—	—	—	—	—	—
190207	11 月中旬	検出 (G II)					
190208	11 月中旬	検出 (G II)					
190209	11 月中旬	—	検出				
190213	11 月下旬	—	検出				
190214	11 月下旬	—	—	—	—	—	—
検出計		5 件	2 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(—): 未検出

## 6 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 11 月中旬（検体番号 190204））について、RS ウイルスの検査を実施したところ、RS ウイルス B 亜型が検出されました。

## 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

発生届のあった検体 1 件について検査を実施したところ、4 つの遺伝子型（IMP 型、NDM 型、KPC 型、OXA-48 型）ではありませんでした。（詳細は表 3 のとおり）

表 3 検査状況（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

検体情報		検体受付日	総合判定			
発生届年月日	菌種		IMP 型	NDM 型	KPC 型	OXA-48 型
R1.12.23	<i>Enterobacter aerogenes</i> (尿より分離)	R1.12.24	—	—	—	—

(—): 未検出